

第4学年 図画工作科学学習指導案

図画工作・美術科研究室

題材 木から生まれた世界
～心にのこった日～

指導観

本題材は、4年生になってからの生活で、自分が一番心に残っている場面を、いろいろな彫刻刀の特性を生かして版にし、刷りの効果も組み合わせて、表現する喜びを味わうことをねらいとしている。彫刻刀を使って彫っていく楽しさ、刷りあがる喜びを味わうことで、進んで表現活動に親しむことができる題材である。

4年生になってからの生活の中で、心に残っている場面を振り返り、意欲的に表現していくことができる。

自分の表し方を決め、人物の大きさ、配置、背景の様子など画面構成を考えることができる。

彫刻刀の選び方、彫りの向きを考え、工夫して版に表すことができる。

参考作品・製作途中・完成段階で鑑賞することで、表現のよさを見つけ、自分の作品に生かすことができる。また、違いに気付いたりそれぞれの表したいことを感じ取りたりして、お互いに共感することができる。

本学級の児童は、1学期の「わすれられない日」で、自分のポーズを考えて構図を工夫したり、色や筆遣いを工夫したりしながら、4年生になってからの学校生活で一番思い出に残っている場面を水彩絵の具を使って絵に表した。

また、事前のアンケートでは、90%もの児童が絵に表すことは楽しいと思っているという結果が出ている。

しかし、中には自分の表したいことを具体的にどう表現していいかわからず、表現活動が停滞してしまったり、意欲が続かない児童が見受けられた。

そこで、材料・用具の特徴を生かした、自分の表し方を考えさせることで、表現の幅を広げ、自分が表したいことをよりよく表せるようにしていきたい。それが発想や構想の能力を高めることにつながると考える。

本題材の指導にあたっては、まず、参考作品を鑑賞し、木版で表現することのよさと紙版との違いを感じとらせていく。

次に、彫刻刀を使ううえでの安全指導をしてから、試しの板にとがった線、半円の中、四角の中を丸刀・三角刀・平刀で彫らせる活動の時間をとる。そうすることでそれぞれの彫刻刀の特徴と彫りの効果について知ることができるようにする。

表現の活動では、1版で表すのか、2版で表すのかといった表し方を考えさせる時間をとり、構図や彫り方をどのように工夫すれば、表したいことが表せるのかも具体的に考えさせる。

刷りの活動では、手順を示し、児童がグループで協力し合いながら活動できるような場を設定する。

作成途中や完成した時点で作品を鑑賞する活動では、自分や友達の表したいことを感じ取りながら、作品のよさを味わうことができるようにする。

目標

木版で表す活動に興味をもち、進んで取り組もうとしている。

(造形への関心・意欲・態度)

自分の表したいことに合わせて、表し方を決めて、画面を工夫して構成することができる。

(発想や構想の能力)

色々な彫刻刀の特性を生かし、彫り方を工夫して版をつくることができる。

(創造的な技能)

表したいことを読み取りながら表現のよさに気づき、共感したり、感じの違いなどを分かたりすることができる。(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全11時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体的評価規準	指導事項	指導方法
自分 の 気 持 ち を 明 確 に す る	1 参考作品を鑑賞する。 試しの板を彫る。 (2時間)					<ul style="list-style-type: none"> 木版に表していることに興味をもつ。 (関) 参考作品のよさを感じとることができる。(鑑) それぞれの彫刻刀の特徴と刷りの効果を知ることができる。(発) 安全に彫刻刀を使うことができる。(技) 表したいことを明確にすることができる。(発) 	<p>木版で表現することのよさ、紙版との違いを感じ取らせること。</p> <p>彫刻刀の特徴をつかませ、どんな時に使うかを考えさせること。</p> <p>どこで、何をしている時の、どのような気持ちを表すのかを明確にすること。</p> <p>2版や1部に色をつけるなどの表現を知ること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻刀の安全で正しい使い方の指導をする。 B5程度の大きさの板を用意する。指定したものを彫らせ、彫刻刀の特性を感じ取らせる。 児童が感じたことは、クラスの財産として模造紙にまとめ、掲示する
	2 自分が表したいことを図工ノートに書き、ラフスケッチをかく。 参考作品を鑑賞する。 (1時間)					<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したいことに合う表し方を決め、画面構成を考えることができる (発) 	<p>どのような表し方にするのか、決められるようにすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1版で表す 2版で表す 背景の1部分に水彩絵の具で色をつける <p>自分の表したいことが表せるように人物の大きさ・ポーズ・位置を考え、工夫して画面を構成すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示し、特徴を感じとらせることで、表し方を決めるめやすにする。 ラフスケッチを黒の色画用紙に白いクレヨンでかかせておき、色画用紙も使いながら、自分の表し方を決めさせる。 紙人形やデジカメを使って自分の大きさ・ポーズ・位置を決めさせ、トレーシングペーパーに下絵を描かせる。
画面 を 構 成 し 下 絵 を 線 描 き す る	3 表し方を決め画面構成を考えて下絵を描く。 下絵を版木に写す。 (2時間) (本時1/2時)					<ul style="list-style-type: none"> 自分が表したいことに合う表し方を決め、画面構成を考えることができる (発) 	<p>どのような表し方にするのか、決められるようにすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1版で表す 2版で表す 背景の1部分に水彩絵の具で色をつける <p>自分の表したいことが表せるように人物の大きさ・ポーズ・位置を考え、工夫して画面を構成すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示し、特徴を感じとらせることで、表し方を決めるめやすにする。 ラフスケッチを黒の色画用紙に白いクレヨンでかかせておき、色画用紙も使いながら、自分の表し方を決めさせる。 紙人形やデジカメを使って自分の大きさ・ポーズ・位置を決めさせ、トレーシングペーパーに下絵を描かせる。

					・線の太さに気を付けながら写している。 (技)	意図をもって線の太さを考えること。	・版木に写す部分を決定するための枠を用意する。 ・版木にカーボン紙で反転写する。
版に表す・ 刷る	4 自分が表したいことを表すための効果的な彫り方を考える。 (1時間)				・彫刻刀の違いによる効果的な表現を考えながら彫り方を考えている。 (発)	自分が表したいことに合わせて、彫り方を考えていくこと。	・それぞれの彫刻刀の特性を生かして表せるように、クラスの財産をもとに考えさせる。
	5 彫りの違いを確かめながら、工夫して彫刻刀で彫る。 (2時間)				・考えたことをもとに三角刀、丸刀、平刀、切り出し刀の特性を生かし、工夫して彫っている。 (技)	どの彫刻刀でどんな彫り方をすれば効果的かを考えながら彫り進めていくこと。	・彫刻刀の安全で正しい使い方を再確認する。
	6 友達と協力して刷り具合を確かめながら丁寧に刷る。 (2時間)				・用具を正しく使って友達と協力して刷っている。 (技)	刷りの感じを確かめながら刷っていくこと。	・インクの量、ローラー、バレンの使い方など刷り方の演示をする。 ・表し方によってグループを作って、刷る。
鑑賞する	7 お互いの作品を鑑賞し、よさを認め合う。 (1時間)				・表したかったことと彫りの効果などの工夫とを関連させながら自分の作品を紹介することができる。 ・友達の作品に込められた思いを感じ、そのよさを見付けることができる。 (鑑)	自分の表したかったことと画面構成や彫り方の工夫とを関連させた自己評価をすること 友達の表現のよい所に気付き、自分の作品に生かそうとしていること	・友達の作品を見て、どんな思いが伝わってくるのか、そう思う理由も書かせる。 ・よさを認め合えるように、ふせんに気付いたことを書いて、作品の周りに貼らせる。

本時

平成20年10月7日(火)5校時 教室

本時目標

どのような表し方にするか考えようとしている。

(造形への関心・意欲・態度)

自分が表したいことに合わせて、表し方を決め、画面構成を考えることができる。

(発想や構想の能力)

体や服のしわなどに気を付けながら、下絵を描くことができる。

(表現の技能)

授業仮説

表し方の特徴を知り、表し方を試すことができるような支援の工夫を行えば、自分の表したいことに最適な表し方を考えることができるであろう。

準備

参考作品

トレーシングペーパー

紙人形を作るための紙

デジカメ

色画用紙

図工ノート

わかったことを参考にして、自分の表したいことに合う表し方を考えさせていきたい。

次は、下絵を描かせる。1つ目の手立てとして、紙人形を作らせる。頭・体・腕・手・足などパーツごとに切った紙人形で、それを自由に動かしながら、自分の大きさ・ポーズ・位置を考えさせたい。また、必要に応じてデジカメも使わせ、自分の表したいことが伝わるように画面構成ができるようにする。2つ目の手立てとして、友達とお互いにポーズをとりあって描かせるようにする。体や服のしわなどにも気を付けて描かせていきたい。また、2版で表す児童には、版の色を考える時間をとる。色を与える印象を考えさせながら、自分が表したいことに合う色を選ばせる。どの活動においても、児童が意図をもって表現できるようにしていきたい。

戸惑っている児童には、自分が何を表したいか書いた図工ノートに戻らせ、表し方を考えさせるようにする。

評価にあたっては、図工ノートや評価補助簿を活用し、児童がどんなことを表そうとしているのか、どんなことに困っているのか把握したうえで、個に応じた支援をしていきたい。その際、児童が十分に思考できるように、教師側から色々と与えるのではなく、児童の必要に応じて支援するようにしていく。

本時の指導と評価の考え方

本時は、自分の表したいことが表せるようにどのような表し方にするのか決めることと、人物の大きさ・ポーズ・位置を考え、工夫して画面構成をすることがねらいである。

本時の指導にあたっては、表し方を決めさせるために、まず、1版で表現された作品、2版で表現された作品、背景に色を塗った参考作品から、それぞれの特徴を感じ取らせていく。次に、黒の色画用紙に白のクレヨンで描かせたラフスケッチをもとに、色画用紙も使いながら、表し方を試す時間をとる。これら2つの活動で

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導 入	1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて 自分が表したいことが伝わるように、画面の工夫を考えよう。</div>			
展 開	2 自分の表し方を決める。 (1) 参考作品を鑑賞し、作品から受けた感じを話し合う。 (2) ラフスケッチをもとにして、表し方を決める。 3 下絵を描く。 (1) 紙人形を使い、自分の大きさ・ポーズ・画面上の位置を考える。 (2) 背景の版の色を決める。(2版で表す児童)	<ul style="list-style-type: none"> どのような表し方にするか考えようとしている。(関) どのような表し方にするか決めることができる。(発) 自分が表したいことが伝わるように、画面構成を考慮することができる。(発) 自分が表したいことが伝わるように、版の色を考慮することができる。(発) 	<p>自分が表したいことはどんなことか振り返ること。</p> <p>表したいことと表し方が結びつくようにすること</p> <p>表したいことを表すための画面構成の工夫を考慮すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きさ ポーズ 位置 <p>色を与える印象(寒色・暖色など)、をもとに考えさせること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品の特徴をみんなで見せ合い、どの表し方が表したいことが表せるか考えさせる。 黒の色画用紙に、白のクレヨンで描かせたラフスケッチで、刷り上がりの状態を想像させ、表し方を決めさせる。 頭・体・腕・手・足などパーツごとに切った紙人形を作らせ、それを自由に動かしながら考えさせる。 必要に応じてデジカメを使わせる。 自分が表したいことが伝わるように、色画用紙を使って、版の色を考えさせる。
終 末	4 本時学習を振り返り、次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の下絵を見直し、次時の活動への見通しがもてている。(関) 	自分の活動の進み具合を把握すること。	なぜその表し方を選んだのかを図工ノートに書かせる。